□書　評□

「腸疾患診療 プロセスとノウハウ」

清水　誠治・斉藤　裕輔
田中　信治・津田　純郎　編

九州大学大学院病態機能内科学教授
飯　田　三　雄

このたび医学書院から『腸疾患診療―プロセスとノウハウ』が発刊された．編集者の清水誠治，斉藤裕輔，田中信治，津田純郎の4氏をはじめ，本書の執筆に当たられた方々は，いずれも20有余年にわたって腸疾患診療の第一線で活躍されてきたエキスパートたちである．本書は，日常臨床の現場で診断に困ったときや治療法の選択に迷ったときなどに気軽に活用できる実践書として好評を博することは間違いないであろうと考える．

私が消化器内科を専攻すると決めたのは1970年代の初めごろであるが，当時の消化器病に関する教科書としては，「Bockus Gastroenterology」が唯一であり，日本語で書かれたものは皆無に近かったと記憶している．近年になり，本邦でもやっと消化器疾患の臨床に関する成書が出版されるようになってきたが，その数は限られたものであり，特に腸疾患の診療に役立つ実用書となると極めて少ないというのが現状であろう．このような背景から生まれたのが本書であり，腸疾患の診断のプロセスと治療のノウハウがわかりやすく解説された，日常診療に欠かせない1冊としてできあがっている．

本書は3章から構成されており，最初の2章は総論的な内容となっている．すなわち，第1章では症候，病歴，身体所見，臨床検査値，腹部単純X線所見，検便など患者さんに負担をかけることなく得られる基本的な情報から診断を絞り込んでいく過程が示されている．続く第2章では，注腸X線検査，大腸内視鏡検査，小腸内視鏡検査，超音波検査，CT・MR検査，PET検査などの諸検査法の位置づけ，適応，方法，読影の要点が解説されている．これら最初の2章は，主として基本的事項の記載から成り立っており，学生や研修医のみならず，比較的経験の浅い消化器科医師にも理解しやすい内容となっている．

第3章は各論で，本書全体の1/2の頁数を占めており，“日常診療にすぐに役立つ情報を網羅する”という視点から，わかりやすく解説されている．しかも，この章では，個々の疾患ごとに記載されている項目とともに，「上皮性大腸腫瘍」，「非上皮性大腸腫瘍」，「注腸X線検査，大腸内視鏡検査でわかる小腸疾患」，「感染性腸炎」，「全身性疾患と腸病変」など疾患群を包括して記載する項目も設けられており，鑑別診断や治療法の選択など理解しやすい構成となっている．取り上げられた疾患も頻度の高いものから比較的まれなものまで多岐にわたっており，かなり経験を積んだ消化器病専門医にも役立つ内容である．

さらに，本書では，その記述がすべて1～4行の箇条書きで統一されており，大変読みやすい構成となっている点も特徴の1つとして挙げられる．また，提示された画像はすべて美麗かつシャープな写真が厳選されており，適切に挿入された図表とともに，本文の記述内容を理解するのに極めて効果的である．したがって，これから消化器関連の学会の専門医試験を受験予定の医師にとっても，知識の整理に役立つ教科書となりうることが期待される．

以上のごとく，本書は初心者からベテランに至るまで，腸疾患診療に携わるすべての医師にとって，大変参考になる必携の書である．

●B5　頁448　2007年　定価15,750円（本体15,000円＋税5％）

医学書院 刊（☎ 03-3817-5657）

© IGAKU-SHOIN Ltd, 2008

2026/09/17 13:07:55